

浜辺達男の

遺稿と想い出集

主と共に

○ 菩提院教会的にも届けて下さるご恩に
ありがとうございます。私と井原兄の縁に
お礼の気持ちを込めて届けて可。
(浜辺達男の遺稿：2020年4月15日)

浜辺達男先生に感謝して

水本和智

浜辺先生との出会いは九州熊本県の荒尾市に建つ荒尾教会でした。1975年先生が新任牧師として綺麗な奥様と一緒に就任されたときでした。私は田舎育ちの学生でしたから東京からの且つ伝統ある青山学院ご出身の先生ご夫妻はとても若々しく輝いて見え、かなりの緊張感を覚えながら先生からのご指導を大いに楽しみに思ったことでした。

私は、学生時代はこの地を離れていましたので先生のお話を伺うのは帰省中の時でした。先生はしばしば神学に関する文献を広げ、口角泡を飛ばすが如くあの笑顔と大声で熱心にお考えを開陳しておられました。私が不勉強で又理系学生であったためかその時の話の内容は殆ど覚えていませんが、後の先生のご業績からして既にこの頃からバルト神学について語っておられたのかも知れません。六十年余が経つ今、当時

の先生のお元なご様子がとても懐かしく目前に浮かびます。

私が社会人になり上京してからは仕事や世事に忙殺され、以来永くご無沙汰を重ね大変な失礼を続けることになってしまいました。

ところが奇遇にも再会の機会が与えられました。私が転会した世田谷区にある「代田教会」の木原諄二先生が浜辺先生と一緒に「大学キリスト者の会」で活動しておられることがきっかけでした。直ぐに浜辺先生にご連絡し、懐かしさに興奮しながら敬子夫人と共に、そして木原ご夫妻にも同席をお願いし渋谷の地で50年ぶりの再会を果たしました。

教会の関係では不思議なご縁が広がることはありませんが、この再会もまた主に導かれた信頼と喜びを思う誠に嬉しいひと時でした。

いつか先生の説教を是非拝聴したいと願っていましたが残念ながらこれは実現できませんでした。今はこのことが心残りです。

荒尾教会時代は信徒として教師に対するなす

べきことも心得ず、不足や失礼のあったことをお詫びし、その上で浜辺先生のご指導に心からの感謝をお捧げいたします。

(代田教会会員)

浅野先生

来訪

文島君



関田先生

来訪



水本

関田

正木

浜辺先生の思い出

井原 延志

Seishi Ihara
(Palm Springs, California)

浜辺先生が神学校を卒業されて最初の赴任地が、私の郷里である熊本県荒尾市の荒尾教会でした。教会は有明海が見える高台にあり、夕日が綺麗なところでした。その荒尾市は、福岡県大牟田市と共に、三池炭鉱が点在する炭鉱の町でした。しかし不幸にも、昭和三十年代にエネルギー革命が起こり、石炭産業が不況、多数の炭坑夫が首切りにあい、町は失業者ばかりとなっていました。

浜辺先生ご夫妻は、そんな不景気の真つ只中に荒尾教会へ赴任して来られました。そして、その荒尾教会も然り、信者数も少なく、教会運営は儘ならぬ状態だったと聞いていました。つまり、荒尾教会はたいへん貧乏だったのです。先生は、そんな荒尾の困難な時期にもめげず、若さとフアイトで宣教に頑張っておられま

した。さぞかし大変なスタートだったと思います。先生の初任地にしては、余りにも過酷な所だったのです。先生は、何時も手拭いを腰にぶら下げ、市中を自転車で漕いで回っておられた姿を、よく見かけました。あの姿は誰が見ても、横浜の都会育ちには見えませんでした。まるで地元のお兄ちゃんの様でした。

私が、先生と面会したのはその頃でした。それが縁で日曜礼拝へ参列する様になっていました。その時私は、地元の高校を卒業（昭和33年）したばかりでした。進学を諦めて就職すると決めていました。しかし時悪く、不景気の地元では仕事はありませんでした。そんな時浜辺先生は、私のために親身になって先生の友人、知人に連絡をとってくださった事もありました。感謝に絶えませんでした。

浜辺先生とのいちばんの思い出は、先生が私をクリスマスキャロルの一員にして頂いたことでした。信者さん宅へ賛美歌をお届けして、一同が夜明け前に教会へ戻り、一同さこ寝して、

先生も交えて雑談したことです。忘れ難い一夜でした。

私は、渡米して半世紀がたちました。その間、先生ご夫妻のことを回想していました。たまたま荒尾へ帰っても、連絡先不明で再会が実現しませんでした。しかし昨年、オンラインを駆使して「浜辺達男」を検索したところ、運良く情報をゲットしました。先生は横浜上原教会に籍ありと発見。遂に60年振りにご夫妻のお声を聞くことができました。私は感無量でした。

浜辺先生、有難うございました。そしてご苦労様でした。安らかにやすみください。

礼拝後



牧師 井原 水本